

環境経営レポート

Vol. 12

2024 年度

持続可能な未来を創造する

 ペーパーウェア株式会社



対象期間： 2023年11月～2024年10月

発行日： 2024年11月30日

1. 組織の概要

- ・ 事業所名及び代表者名
ペーパーウェア株式会社
代表取締役社長 新井 聡
- ・ 所在地
本 社： 東京都千代田区東神田 1-11-14
千葉工場： 千葉県野田市西高野 278
- ・ 環境管理責任者および担当者連絡先
管理部長： 杉浦 昭宏 TEL 03(5833)5050
Eメール： a_sugiura@paperware.co.jp
URL： <http://www.paperware.co.jp/>
- ・ 事業活動の内容
紙皿・紙トレイ等の紙製容器の製造及び販売

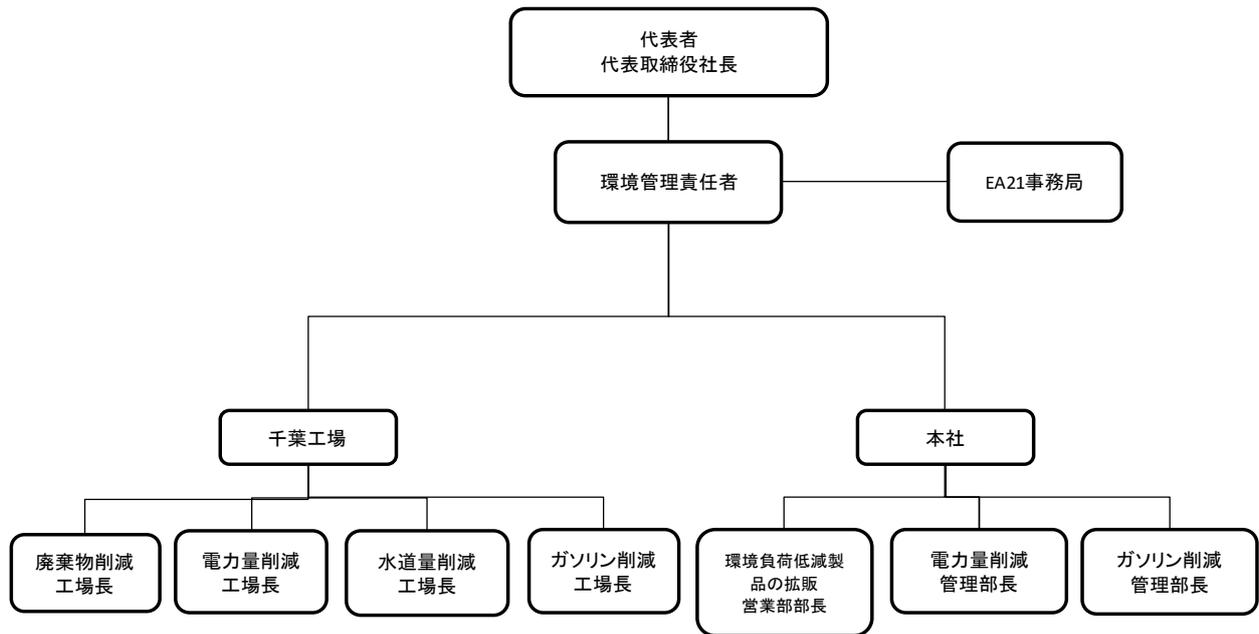
- ・ 事業の規模

	本社	千葉工場
従業員数	8名	80名
延床面積	233 m ²	4,335 m ²

2. 対象範囲

- ・ 登録組織名
ペーパーウェア株式会社
- ・ 対象事業所
本 社： 東京都千代田区東神田 1-11-14
千葉工場： 千葉県野田市西高野 278

3. エコアクション組織図および実施体制



(役割分担表)

	責務
代表者 代表取締役社長 新井 聡	<ul style="list-style-type: none"> 経営における課題とチャンスの明確化 環境管理責任者の任命 環境経営方針の策定 代表者による全体評価と見直し 環境経営レポートの承認 実施体制の全従業員への周知
環境管理責任者 管理部長・杉浦 昭宏	<ul style="list-style-type: none"> 全体の把握／環境経営システムの構築と運用 環境目標／環境活動実施計画書／実績表作成（含データ集計）と代表者への報告 教育訓練実施指示 環境経営システムの運用・維持状況監査
EA21 事務局 管理部長・杉浦 昭宏	<ul style="list-style-type: none"> 環境関連法規等の取りまとめと遵守評価実施 環境経営レポート作成 EA21 文書類の作成・維持・管理
(EA21 実施担当)	
工場長	(工場) 廃棄物削減： ゴミの集計。報告 電力量削減： 電気使用量集計 報告 水道料削減： 水道量集計 報告 ガソリン適正管理： 使用量を月ごとに集計 報告 化学物質適正管理： マニュアルにて適正管理
管理部長	(本社) 電力量削減： 電気使用量集計 報告 ガソリン適正管理： 使用量を月ごとに集計 報告
営業部長	環境負荷低減製品の販売額を集計 報告

毎月、幹部会にて10分程度ミーティング。結果資料配布、各自報告等

4. 環境経営方針

ペーパーウェア株式会社 環境経営方針

<企業理念>

当社は、地球環境保全が世界共通の最重要課題のひとつであることを認識し、「取引先および社会一般から、より信頼される会社を目指す」という経営理念のもと、紙製容器の製造販売事業において環境との調和をはかりながら環境負荷の低減に努めます。

<行動方針>

1. 省エネルギー化を進めて、二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化の防止に努めます。
2. 省資源で仕事を進めるように努め、廃棄物の発生量を低減します。
3. 節水を進め、排水量を低減します。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. 環境に優しい（環境の改善に寄与する）製品の開発・拡販に努めます。
6. 環境関連法規等を遵守すると共に、内外に環境改善への活動を約束し、環境コミュニケーションを通じて公表します。

社内の要所に環境方針を掲示して、全従業員にエコアクション21環境経営システムを徹底します。

2024年5月31日
ペーパーウェア株式会社
代表取締役社長 新井 聡

5. 環境経営目標・環境経営目標の実績

(1) 千葉工場

① 中長期目標

目標項目	2022年度 (基準年度)	2023年度	2024年度	2025年度
1. 二酸化炭素排出量削減 ①単位当り使用電力 (g-CO2/枚)	1.636	維持	維持	維持
2. 廃棄物の削減 ①原紙抜き滓 (g/枚) ②廃プロピレン (g/枚)	1.19 0.080	維持 維持	維持 維持	維持 維持
3. 水使用量の削減 (m³)	678.9	維持	維持	維持
4. 化学物質使用量の適正管理	適正管理の為、管理ルールを設け、遵守状況をチェックする			

※ 基準年度 (2022年度) は2021年11月~2022年10月

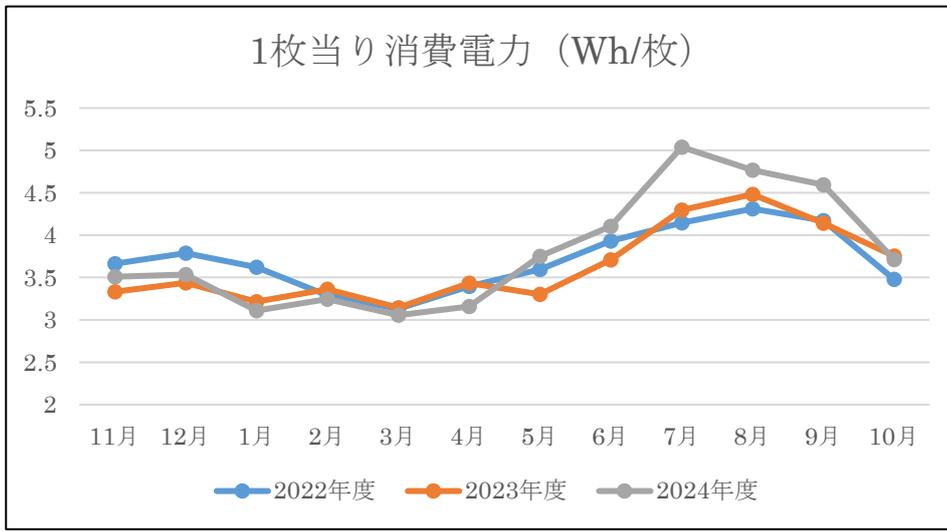
※ 基準年度のCO2排出係数は、令和3年度東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数0.441 Kg-CO2/kwhを使用しました (2020年6月より買電先をエネサーブ(株)から東京電力エナジーパートナー(株)に変更)。

② 2024年度運用結果 (2023年11月~2024年10月)

目標項目	2022年度 (基準年度)	目標	実績	達成状況
1. CO2排出量 ①単位当り排出量 (g-CO2/枚)	1.636	維持	0.573	○
2. 廃棄物の削減 ①原紙抜き滓 (g/枚) ②廃プロピレン (g/枚)	1.19 0.080	維持 維持	1.22 0.077	× ○
3. 水使用量の削減 (m³)	678.9	維持	580.6	○
4. 化学物質使用量の適正管理	管理ルールを遵守し、適正に管理されている			○

達成状況： ○目標達成、△目標未達、但し基準年比減、×目標未達

CO2排出量は2024年4月より使用電力を再生可能エネルギー由来に移行したことで大きく改善



2024年度もデマンド管理、生産機運転の効率化に努めましたが、夏場に生産枚数が振るわず、1枚当たりの消費電力は悪化しました。2025年度以降も引き続き改善に努めます。

(2) 本社

① 中長期目標

目標項目	2022年度 (基準年度)	2023年度	2024年度	2025年度
1. CO2 排出量				
①電力 (kg-CO2)	7,302	維持	維持	維持
②ガソリン (kg-CO2)	295	維持	維持	維持
小計	7,597			
2. 水使用量の削減 (m³)	35.4	維持	維持	維持
3. 環境対応製品販売 (千円)	※(A)	+5%	+10%	+15%

※ 2022年度(基準年度)のCO2排出量係数は、令和3年度東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数0.441kg-CO2/kWhを使用しました。

② 2024年度運用結果 (2023年11月～2024年10月)

目標項目	2022年度 (基準年度)	目標	実績	達成状況
1. CO2 排出量				
①電力 (kg-CO2)	7,302	維持	6,269	○
②ガソリン (kg-CO2)	295	維持	633	×
小計	7,597			
2. 水使用量の削減 (m³)	35.4	維持	47.2	×
3. 環境対応製品販売 (千円)	※(A)	※(A) × 110%	(A) × 140.6%	○

達成状況： ○目標達成、△目標未達、但し基準年比減、×目標未達

(3) 2024 年度 CO2 排出量

(kg-CO2)	千葉工場	本社	合計
1. 電力 (※)	198,143	5,544	203,687
2. ガソリン	223	633	856
3. 軽油	595		595
4. LPG	83		83
合計	199,044	6,177	205,221

(※) 電力の算出における CO2 排出量係数は、令和 4 年度東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数 0.390kg-CO2/kWh を使用

6. 環境活動計画・取組結果と評価、次年度の取組内容

(1) 工場

環境活動計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
CO2 排出量削減 (電気) ① 昼休みの消灯 ② エアコン冷房室温 28℃暖房 20℃ ③ クールビズ運動 ④ パソコン省エネ設定 ⑤ 省エネタイプ(LED)の照明灯へ更新 ⑥ 生産効率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休みの消灯は EA21 取組前より 100%実施。 ・ 事務所棟の室温管理は 100%実施。工場棟は夏期室温が 38℃に達することもあり、社員の健康のため冷房設定を 28℃以下で運用。 ・ 第 2 棟の蛍光灯を 100%LED 化済。省エネ型コンプレッサー 4 台導入済。 ・ 生産減により生産効率が悪化。単位当たり消費電力量は 4.2%増加。次年度の改善を目指す。 	継続して実施する 次年度は、通期で CO2 排出量がゼロとなることから、CO2 排出量目標を単位当たり使用電力 Kwh/枚に変更する。
CO2 排出量削減 (ガソリン) ①エコドライブの徹底 ②燃費管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの励行。 ・ 使用記録票を作成し燃費を管理。 	継続して実施する
廃棄物量削減 ① 両面コピーの推進 ② 廃棄物区分によりリサイクル効果の向上を図る ③ 紙送りピッチの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報管理上問題ないものについては裏面を再コピー利用中。 ・ 原紙抜き滓の有価での売却を継続。 	継続して実施する

水道水の削減 ① 節水シールの貼り付けとポスター掲示 ② 節水弁の取り付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節水教育を継続中。 ・ トイレ他、省エネ型に切り替え済。 	継続して実施する
化学物質適正管理 使用量を台帳により適正管理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用量を台帳管理により適正に管理する。 	継続して実施する

(2) 本社

環境活動計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
C02 排出量削減 (電気) ① 空調温度の適正化 (冷房 28℃、暖房 20℃) ② クールビズ運動 ③ パソコン省エネ設定 ④ 昼食時、不使用時の消灯徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休みの消灯は EA21 取組前より 100% 実施。 ・ 室温管理は EA21 取組前より 100% 実施。 ・ クールビズの実施 (5~10 月) ・ EA21 取組前より Energy Star 等の省エネプログラム内蔵の PC を使用。 	継続して実施する
C02 排出量削減 (ガソリン) ① エコドライブの徹底 ② 冷房の控えめ使用 ③ 燃費管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業活動の活発化により使用量増加。 ・ エコドライブを励行。 ・ 使用記録票を作成し管理している。 	継続して実施する
環境対応製品販売 ① 環境対応製品の開発・販売	<ul style="list-style-type: none"> ・ FSC 認証・間伐材使用等の環境対応製品の拡販に努め、SDGs 等の環境意識が高まる中、目標比+40.6%。 	FSC 認証製品の拡販に努める。
廃棄物量削減 ① 両面コピーの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報管理上問題ないものについては裏面を再コピー利用中。 	継続して実施する
水道水の削減 ① 節水シールの貼り付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節水教育を継続中 ・ トイレ他、省エネ型に切替。 	継続して実施する

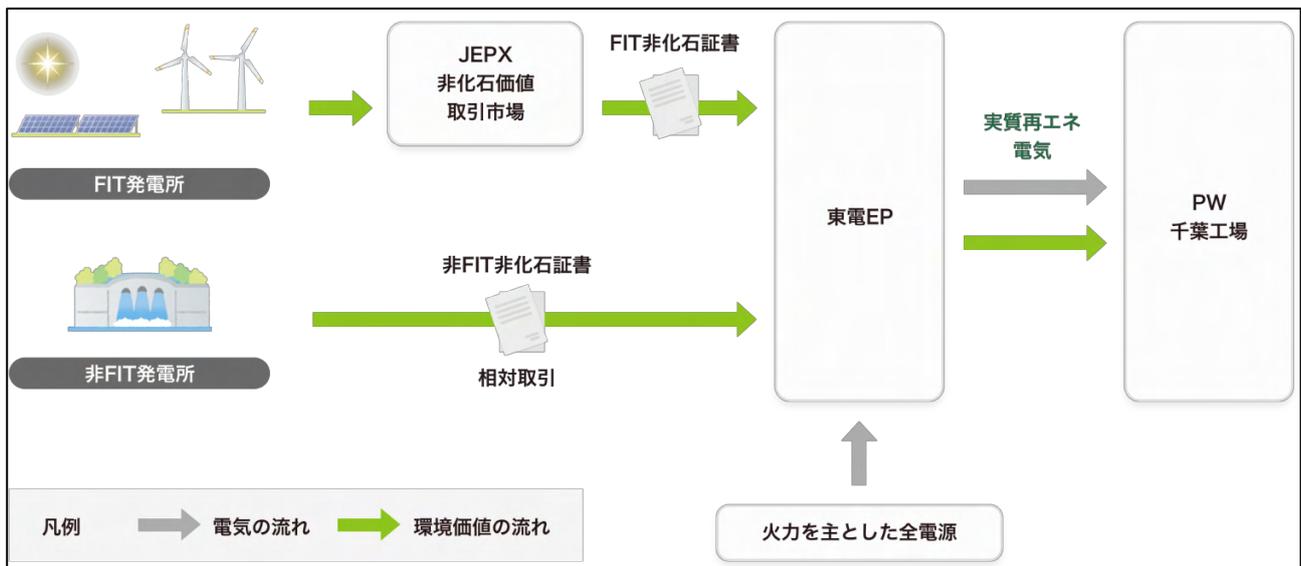
(3) カーボンニュートラルの実現

2024年4月より、千葉工場で使用する電力の100%は、東京電力エネルギーパートナー株式会社が提供するグリーンベーシックプラン(注)を導入しております。これにより当該施設でのCO2排出量の99.8%が実質ゼロになります。

社会全体が脱炭素化を目指す中、当社は地球環境と人類社会の共生、循環型社会の実現へ向けて、ものづくりが人間社会と地球環境の中で調和することを目指しています。その一環として、自社の事業活動に起因する温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

(注) グリーンベーシックプランとは

東京電力エネルギーパートナー株式会社が提供する、実質的にCO2排出量がゼロとなる太陽光・風力・水力その他の再生可能エネルギー由来の電力を供給するプラン。全電源平均電力にFIT非化石証書(トラッキング付き)および再エネ指定の非FIT非化石証書(電源属性情報有り)を組み合わせたRE100等における各種報告に対応可能な非化石証書を活用したメニュープランです。



8. 環境に優しい（環境の改善に寄与する）製品

(1) ペーパーウェアが作る環境にやさしい紙製食器

紙の原料となる木材パルプは約 88%が植林によるものです。管理された木々が成長の段階で多くの二酸化炭素を吸って温暖化対策に貢献しています。

さらに、製造段階で出る廃液（黒液）を燃料として活用。そして植林を行う、このサイクルを繰り返す事により、管理された循環資源として温暖化対策・枯渇する事のない資源として環境対策に貢献しています。

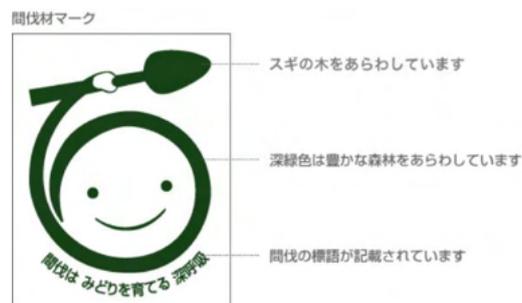


(2) 間伐材マーク使用認定の取得

育ちすぎて過度に密集した森林は日当たりが悪くなり、その結果すべての木が、細く弱い木になってしまいます。密集した森林の立木を一部抜き取る事を間伐といいます。

間伐する事により、十分な日当たりが確保できるようになり、森林の成長に繋がります。またその際に抜き取られた木材を間伐材といいます。森林を育てる際に伐採された間伐材の利用は環境に優しいといえます。

間伐材マークは、間伐材の使用の認定を受けた製品につけることができ、間伐や間伐材利用の重要性などをPRしています。また間伐材マークの適切な使用を通じて、間伐推進の普及啓発及び間伐材の利用促進と消費者の製品選択に資する一方、製品・企業が森林整備・育成に対して貢献している事を一般消費者に認知してもらう事が出来ます。



(3) FSC®/COC認証の取得 (FSC®C126252)

2015年9月、当社は森林資源の保全に賛同し、持続可能な森林の利用と保護に努めるべく、FSC®(Forest Stewardship Council®：森林管理協議会) 森林認証を取得しました。

FSC®森林認証とは、独立した第三者機関によって作成された基準に照らし、森林の適切な管理を審査・認証する制度です。現在、全世界的に展開されており、最も信頼性が高いとされる森林認証制度です。

FSC®森林認証にはFM認証(森林管理)とCOC認証(製造・流通・加工過程の管理)の2種類がありますが、当社はCOC(Chain of Custody)流通管理認証を取得しております。

COC認証とは、FSC®認証された森林からの産物が製品へ加工されて流通する過程において、森林認証を取得していない森林から生産されるものと混じらないよう、適切な管理を行なって使用されていることを認証するものです

当社ではFSC®認証原紙を使用した紙皿、紙製食品容器の製造が可能です。

FSC 認証製品が出来るまで



責任ある森林管理
のマーク



FM 認証 (森林管理認証)
適切な管理がなされている森林を審査・認証



COC 認証 (加工流通過程の管理
認証)
認証された森林から生産された木材を管理・加工



認証された原紙を元に製品化。
FSC 認証製品へ

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は以下の通りで、これらに対する違反はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去4年間ありませんでした。

適用関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
浄化槽法	千葉工場浄化槽	設置許可・法定点検 ⇒OK
廃棄物処理法	廃プラ等の産廃	委託契約等 ⇒OK
家電リサイクル法	廃棄時の家電リサイクル券	廃棄なし
容器包装リサイクル法	包装用パッケージフィルム	再商品化義務 ⇒OK
フロン排出抑制法	エアコン等のフロン漏洩確認 フロン回収	簡易点検・定期点検実施記録の保管⇒OK 廃棄時対応⇒廃棄なし
消防法	防火管理者選任、消防用設備点検	届け出、点検結果 ⇒OK

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

(全体評価)

2024年度は、円安による輸入品との競争激化、値上げによる消費者の買い控え等により、販売が伸びず、生産は減少しました。

一方、中期目標のメインである環境対応製品の開発・拡販では、市場の環境意識が高まる中、目標比プラスとなりました。

当社のCO2排出の殆どは工場で使用する電力ですが、2024年4月から工場の使用電力の全量を再生可能エネルギー由来とすることで、生産工程でのカーボンニュートラルを達成しました。

一部の環境目標に未達はありますが、「環境にやさしい紙の食器・容器」メーカーである当社の主力製品と位置付ける環境配慮型製品の拡販により、市場との環境コミュニケーションも図っております。

引き続き全員参加の体制を更に浸透させ成果をあげていきます。

以上